

基礎分野

基礎分野

分野科目名	基礎分野	科目名	物理学
単位・時間	1 単位 30 時間	対象学年・時期	1 年（前期）
方法	講義		
講師名	外部講師		
実務経験	—		

設定理由

医療の現場では物理学の理論を基礎として治療や看護が行われていることが多い。

看護を学ぶ学生が物理学の重要性を認識し、看護技術や医療機器を理論的に考え実践できる能力を身につける。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 物理学的理論・現象・法則がわかり看護実践に活用できる	30	1 物理的諸現象について 2 生活の中の物理学 3 看護の中の物理学 4 医療機器と物理的原理 5 人間工学	講 義	試 験

テキスト 新体系 看護学全書 基礎科目 物理学 メヂカルフレンド社

基礎分野

分野科目名	基礎分野	科目名	生物学
単位・時間	1 単位 30 時間	対象学年・時期	1 年（前期）
方法	講義		
講師名	外部講師		
実務経験	—		

設定理由

生物体としての人間を理解するため、生態系を支配する法則や生命の維持・増進など生物学の基礎を学ぶ。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 生物の基礎がわかる	26	1 生命とは 2 細胞 - 生命の基本単位 3 生体を構成している物質 4 代謝の仕組みⅠ - 異化 5 代謝の仕組みⅡ - 同化 6 生殖 7 発生のしくみ 8 遺伝の法則 9 たんぱく質の基本的性質 10 遺伝子発現とタンパク質合成 11 ヒトの脳と神経系 12 恒常性Ⅰ 13 恒常性Ⅱ	講 義	試 験
	4	14 生物学実習		

テキスト

基礎教養シリーズ まるわかり！基礎生物 南山堂

基礎分野

分野科目名	基礎分野	科目名	社会学
単位・時間	1 単位 15 時間	対象学年・時期	1 年（前期）
方法	講義		
講師名	外部講師		
実務経験	—		

設定理由

社会現象やその背景にあるものの考え方を学び、個人と社会、家族と社会、集団・組織と社会、地域と社会を知ることによって社会の中の自己を考える。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 社会の成り立ちが分かり、自己および他者の理解に活用できる	15	1 社会学の意義 2 ジェンダーの社会学 3 近代社会・家族 4 労働の意義 5 戦前戦後の社会の変動 6 格差社会の出現と問題 7 高齢者福祉の現状と問題 8 医療と社会学	講 義	試 験

基礎分野

分野科目名	基礎分野	科目名	国語表現法
単位・時間	1 単位 30 時間	対象学年・時期	1 年（前期）
方法	講義		
講師名	外部講師		
実務経験	—		

設定理由

論理的思考・表現方法を学び、対人関係における円滑なコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を高める。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 コミュニケーション技術・プレゼンテーションの技術を習得する	2	1 論理的思考	講 義	試 験
	8	2 ディベート		
	8	3 プレゼンテーション		
	12	4 論文 5 小論文		

テキスト 看護の力 岩波新書

基礎分野

分野科目名	基礎分野	科目名	英語
単位・時間	2単位 45時間	対象学年・時期	1年（前期）
方法	講義		
講師名	外部講師		
実務経験	—		

設定理由

国際化社会に適応できる語学力の基礎を身につけてほしい。さらに、医学や看護に関する英語表現を学び、看護実践や生涯学習につなげる。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 基礎的な語学力を身につけ看護に関する文献の通読に役立つ	20	1 英文法	講 義	試 験
	15	2 英会話		
	10	3 文献通読		

テキスト Quick - Step English 1「クイックステップ イングリッシュ 1」南雲堂

基礎分野

分野科目名	基礎分野	科目名	体育
単位・時間	1 単位 30 時間	対象学年・時期	1 年（前期）
方法	実習		
講師名	外部講師		
実務経験	—		

設定理由

身体活動を通していきいきとした心身を育成し、健康の保持増進をする。また、集団で活動することで協調性・自主性を養う。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 心身のバランスを保ち協調性・自主性のある行動がとれる	30	1 ソフトバレーボール（第1～6回）	実 習	実技試験 レポート
		2 バドミントン（第7回～12回）		
		3 卓球（第13回～15回）		
		4 「スポーツ科学」、および「健康と運動」に関する基礎知識		

基礎分野

分野科目名	基礎分野	科目名	コミュニケーション論
単位・時間	1単位 30時間	対象学年・時期	1年（前期）
方法	講義		
講師名	外部講師		
実務経験	臨床心理士として児童養護施設に16年		

設定理由

コミュニケーションが人間関係にもたらす意義や影響を理解する。

また、自らコミュニケーション能力を高めていく意識と姿勢を養う。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 コミュニケーションの意義と構成要素を理解する	30	1 対人関係コミュニケーションの意義	講 義	試 験
2 よりよい人間関係を築くための理論や方法がわかる		2 表情コミュニケーション		
		3 視線コミュニケーション		
		4 身振り・姿勢・周辺言語コミュニケーション		
		5 空間的行動コミュニケーション		
		6 社会的知覚コミュニケーション		
		7 印象形成コミュニケーション		
		8 対人認知コミュニケーションを歪める要因		
		9 対人魅力コミュニケーション		

基礎分野

分野科目名	基礎分野	科目名	心理学
単位・時間	1単位 30時間	対象学年・時期	1年（後期）
方法	講義		
講師名	外部講師		
実務経験	—		

設定理由

人間の心理と行動について学び、自己と他者を理解する動機づけとする。さらに、人間の成長発達に伴う特徴と変化を知り、その個別性を理解する。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 人間の心理や行動の基礎を理解できる	30	1 心を科学する方法：心理学の基本的な考え方について 2 学習：単純な学習 古典的条件付けとオペラント条件づけ 3 性格：性格の理論と測定 力動論 4 カウンセリング 1) 看護や日常生活に活かす技法の基礎 2) 相談のための技法 5 患者の心理の理解 6 社会心理学	講 義	試 験

テキスト 実験心理学 心理学の基礎知識 八千代出版

基礎分野

分野科目名	基礎分野	科目名	情報科学
単位・時間	1単位 15時間	対象学年・時期	1年（後期）
方法	講義		
講師名	外部講師		
実務経験	—		

設定理由

情報科学の初歩的理論を学ぶ。また、コンピューターの機構特性を理解し、基本的な操作能力を習得する。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 コンピューターの特徴を理解し基礎的な操作能力を習得する	15	1 ワードを用いた文書作成 2 ワードを用い、図・表を含む文書作成 3 エクセルの基礎 4 エクセルの関数の利用 5 エクセルを用いているいろいろなグラフを作る	講 義	試 験

基礎分野

分野科目名	基礎分野	科目名	統計学
単位・時間	1 単位 30 時間	対象学年・時期	2 年（前期）
方法	講義		
講師名	外部講師		
実務経験	—		

設定理由

情報、特に数値で表された情報を整理・標準化し、統計処理して科学的に理解、評価する理論と技術を学ぶ。そして看護の分野で用いられる種々の統計の基礎とする。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 基本的な統計データの整理の仕方・統計処理の基本技術を習得する	30	1 統計学概論 2 母集団と標本 3 基礎統計（統計量） 4 度数分布表 ヒストグラム 5 母集団分布（正規分布1） 6 エクセルを用いた統計（統計量、グラフ） 7 母集団分布（正規分布と2項分布） 8 仮説検定の基本的な考え方 9 2項母集団における母比率の検定 10 2群間のちがい（F-検定・t-検定） 11 区間推定 12 エクセルを用いた統計2（分析ツールの利用）	講 義	試 験

テキスト ナースのための統計学 医学書院

基礎分野

分野科目名	基礎分野	科目名	教育学
単位・時間	1単位 15時間	対象学年・時期	2年（前期）
方法	講義		
講師名	外部講師		
実務経験	—		

設定理由

教育は人間の持つ力を引き出しより望ましい姿に変化させる。看護も対象がより望ましい状態になるよう働きかける。そのための教育方法を身につける。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 学習の意味や意義を理解し、教育方法を習得する	15	1 教育の原理 2 教育の機能 3 教える側、学ぶ側の心理 4 教育技法 5 教育評価 6 生涯教育	講 義	試 験

基礎分野

分野科目名	基礎分野	科目名	哲学
単位・時間	1単位 30時間	対象学年・時期	2年（前期）
方法	講義		
講師名	外部講師		
実務経験	—		

設定理由

人間の存在、生と死、生命倫理について学ぶことにより人間について理解する。

単元目標	時間数	学 習 内 容	授業形態	評価方法
1 哲学的・倫理的な思索態度を身につける	4	1 哲学的な倫理学とは何か ・日常道徳と論理学、人生論と倫理学はどこが違うのか ・嘘をつくこととその結果 ・義務論と帰結主義	講 義	試 験
	6	2 義務論の倫理学 ・幸福は道徳の原理になるか ・普遍化可能な格率にもとづいた行為 ・道徳法則と自由 ・最高善と正義の実現		
	10	3 帰結主義の倫理学 ・功利主義と利己主義 ・功利主義と規則 ・功利主義の正当化 ・功利主義の問題点		
	10	4 「人格」と生命 ・SOLとQOL、ケアとキュア ・「生命の質」と「人格」理論 ・「人格」理論の問題点		

テキスト 生命倫理学入門 産業図書